

# 令和6年度 地区別人権教育研究協議会

令和6年11月21日(木) 於:みどり市立大間々北小学校

東部教育事務所では、小・中・義務教育学校での人権教育を推進するために、東部管内の先生方にお集まりいただき、地区別人権教育研究協議会を開催しています。今年度は、各市町小・中学校人権教育部会の代表者と開催地であるみどり市内小・中・義務教育学校の人権教育主任の皆様に参加していただきました。

開催校であるみどり市立大間々北小学校には、年間を通じて取り組んできた人権教育の成果について発表していただいたほか、人権教育の重要課題に沿った、3授業を公開していただきました。また、今年度は参加体験型研修の紹介と実践も行いました。研究協議会では、参加された先生方が、人権教育の視点を基に、とても熱心に協議を行い、大変有意義な研究会となりました。

## 「研究テーマ」

自他の大切さに気付き、よりよい人間関係を築こうとする児童の育成

～一人一人を大切にした対話・交流の充実を通して～

## 《研究発表》

「自他の大切さに気付き、よりよい人間関係を築こうとする児童の育成」に向けて、①「対話・交流を軸とした授業改善」②「教育課程の見直し」③「人権集中学習、たてわり活動の充実」④「委員会活動の取組」⑤「常時指導の充実」の5つの内容で実践例を研修主任より発表していただきました。

大間々北小学校では、「集団と個の相互作用」に着目し、教育活動の中で、対話・交流活動の充実を図ることで、目指す児童の育成に取り組んで



【研究発表の様子】

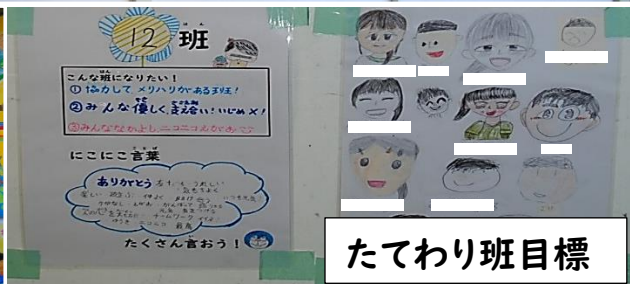
いました。さらに、「大北笑」という誰もがわかりやすく、親しみやすいスローガンを掲げることで、教職員も児童も活動の中で、「自他を大切に作る心」を常に意識できたことは非常に意義深く、他校でも参考になる取組でした。

また、「人権教育充実指針」を基に、人権教育の構造的指導について共通理解を図り、これまで取り組んでいた教育活動を人権教育の視点で捉え直していま

した。大間々北小学校では、②「教育課程の見直し」を図り、③「人権集中学習、たてわり活動の充実」や④「委員会活動の取組」を通して、他者をつながることの大切さを実感できる機会を増やすとともに、お互いを尊重し合う雰囲気醸成するために、①「対話・交流を軸とした授業改善」や⑤「常時指導の充実」を位置づけて研究に取り組んでいました。このように、人権教育を独立したものとして捉えるのではなく、教育活動全体を通じて行うことの大切さを研究発表から学ぶことができました。



【全体会研究発表資料より】



【校内掲示】

## 《公開授業》

教科	重要課題	主題名
学年	内容項目	教材名
道徳	子どもたち	じぶんの しごとを しっかりと
1年	A(5) 希望と勇気、努力と強い意志	おふろそうじ
道徳	子どもたち	明るい心で
3年	A(2) 正直 誠実	モンたんとケロきち
学級活動	インターネット等による人権侵害	インターネットと
5年	学級活動(2) イ よりよい人間関係の形成	コミュニケーション

1、3年生では「子どもたち」、5年生では「インターネット等による人権侵害」の重要課題について授業を公開していただきました。全体会で発表があった「対話・交流を軸とした授業改善」について大間々北小学校の先生方が検討してきた「発達段階に応じた対話に向かうための手立て」や、児童が人権重要課題について理解を深める姿を道徳と学級活動の複数の教科で公開していただいたことは、人権教育の直接的指導の実践例として大変参考になるものでした。



【公開授業の様子】

## 《研究協議会》

今年度の研究協議会は、Ⅱ部構成で実施し、Ⅰ部の授業研究会では公開授業を基に、人権重要課題にかかわる直接的指導の在り方について、「人権教育としての授業研究の視点」を中心に協議しました。「成果」「課題」とともに「参考になったこと、改善策」について活発な協議が行われ、たくさんの御意見をいただきました。授業を公開してくださった先生方にとっても、参観された先生方にとっても、学びの多い授業研究会となりました。

【授業研究会の様子】	【班別協議の記録】(一部)
	
	
	

Ⅱ部では、「R5 学校人権教育推進状況調査」より、参加体験型学習の研修や、外部講師を活用した研修が他の研修に比べて実施の割合が低いことから、参加体験型研修の紹介と実践をしました。テーマは日常に潜む「身近にある無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）について知ろう」です。このワークショップでは、日常にある無意識の思い込みについて知り、対処する方法について、事例を使って考え理解を深めました。

無意識の思い込みは、知らないうちに言動に表れて、人を傷つけたり、人間関係等に影響を及ぼしたりすることがあります。こうした状況に気付かずに、日常を過ごしていたら、児童生徒がエージェンシーを発揮し、ウェルビーイングな状態で生活する際に妨げになってしまうことも考えられます。今回のような事例を通して、「決めつけたり、押しつけたり」していないかという視点を持ち、日常の感覚を見直すことも、人権感覚を磨く上では大切なことであると気付く機会となりました。

【実践の様子】	【配付した資料の一部】
	<p data-bbox="799 992 1182 1025">&lt;身近なアンコンシャス・バイアスの例&gt;</p> <div data-bbox="799 1041 1241 1370"> <p><b>ステレオタイプ</b> ・一部の特性を基に先入観や固定観念で決めつけてしまう 例「血液型がA型の人は〇〇だ」</p> <p><b>慈悲的差別</b> ・「好意的」であるが勝手な思い込みから気遣ってしまう(よかれと思って…) 例「小さい子には、簡単な仕事をさせよう」</p> <p><b>ハロー効果</b> ・長所が見つかったと、その人のあらゆる面がよく見えるようになる 例「第一印象」だけで人の善し悪しを判断する</p> </div> <p data-bbox="1262 1010 1342 1077">ステップ1 <b>知る</b></p> 
	<p data-bbox="815 1429 943 1462">もしかしたら…</p>  <p data-bbox="1262 1429 1342 1496">ステップ2 <b>気付く</b></p>  <p data-bbox="970 1798 1374 1821">出典:学校における男女共同参画の推進のための教員研修プログラム 実施の手引き</p>

<参考資料出典>

- ・ [学校における男女共同参画の推進のための教員研修プログラム 実施の手引き \(mext.go.jp\)](https://www.mext.go.jp)
- ・ [学校における男女共同参画の推進のための教員研修プログラム リーフレット \(mext.go.jp\)](https://www.mext.go.jp)
- ・ [月刊総合情報誌「共同参画」5月号\(2021年5月10日発行\)](#)

## <参加者アンケートより>

### 《研究発表について》

- 人権教育を全ての教育活動において意識して実践しているところが、参考になりました。
- 学校生活のあらゆる場面で自他を大切にする教育をされていることがわかりました。
- 親しみやすいスローガンなどを設定し、様々な取組の中で活用しているところが参考になりました。
- 児童が考え、活動している場面が多いと感じました。
- 継続的な人権教育推進の必要性を学ぶことができました。児童生徒の姿から成果や課題を見出していきたいと思います。

### 《公開授業について》

- 児童からめあてを引き出すことや必要に応じて役割演技を取り入れていることが参考になりました。
- 児童の話し合いがとても活発に行われており、そのための教師の発問や準備が大変参考になりました。
- 児童の意見のつなぎ方や、交流に向かうための手立てが参考になりました。
- 身近な題材を採用し、児童が自分事として捉えることができたと思います。
- インターネットの人権教育について、実態を踏まえたものを考えることができました。
- 考える必要感のある議題だったと思います。小学生と中学生の発達段階の違いが改めてよくわかりました。

### 《研究協議会について》

#### < I 部授業研究会について >

- 皆さんの意見を聞いて、授業の捉え方の参考になりました。
- 導入場面で子どもたちのアンケートの結果をいかし、課題を設定するという視点が参考になりました。

○他校の先生方の意見がとても参考になりました。

### <Ⅱ部参加体験型研修について>

- 研究協議会の中で、参加体験型研修があったことが良かったです。
- 自分では気付かなかったこと、「普通だ」と思い無意識になってしまっていたことに気付くことができました。
- 先入観やバイアスを知り、自分事として捉え、実践していく必要があると感じました。授業等でも取り入れられそうな内容のため、参考になりました。
- 自分の学校でも研修等で取り入れて行きたいと思いました。アンコンシャス・バイアスで学校は溢れているような気がします。少しずつ改善していけたらよいと思いました。



【全体会会場パネル展示】

※今年度、東部管内小・中・義務教育学校の人権教育の推進のため、地区別人権教育研究協議会に向けて、御尽力いただいたみどり市立大間々北小学校の皆様にご感謝申し上げます。